

# 部署の特徴

病床数 44床

## 主な疾患

膵がん、大腸がん、胃がん、食道がん、肝細胞がん、胆管がん、総胆管結石、膵炎、潰瘍性大腸炎、クローン病 大腸ポリープ(1泊入院も含む)

がんの治療が内視鏡によって行われる  
ケースが多くなりこれらの疾患に対し

### 内視鏡治療

他 化学療法・放射線治療などを行っています。

〈日勤〉

保清

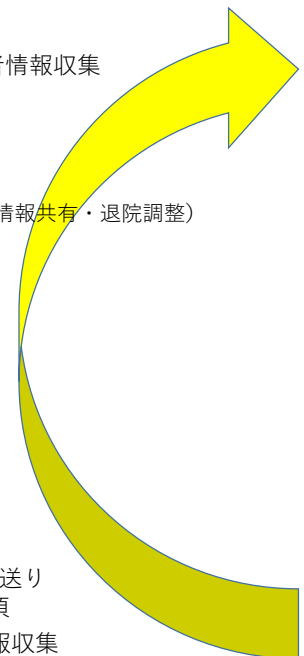


情報共有や  
打ち合わせ

点滴作成



- 16:45 退勤
- 15:00 長日勤務者情報収集
- 14:00 検温
- 13:30 カンファレンス  
(インシデント・他職種・患者情報共有・退院調整)
- 12:30 休憩 (後半)
- 12:00 食事セッティング
- 11:30 血糖測定  
休憩 (前半)
- 10:30 入院患者対応
- 10:00 保清
- 9:00 検温
- 8:20 全体申し送り  
周知事項
- 8:00 情報収集



〈夜勤〉

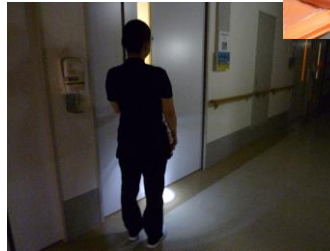
- 17:30 血糖測定
- 18:00 食事セッティング
- 18:30 検温
- 20:15 全体申し送り
- 20:30 長日勤退勤
- 21:00 検温
- 22:00 消灯
- 0:00 巡回
- 2:00 巡回
- 4:00 巡回
- 6:00 検温・内視鏡処置
- 7:30 血糖測定



夜勤業務



ドレイン排液



巡回  
(睡眠状況や点滴の確認)

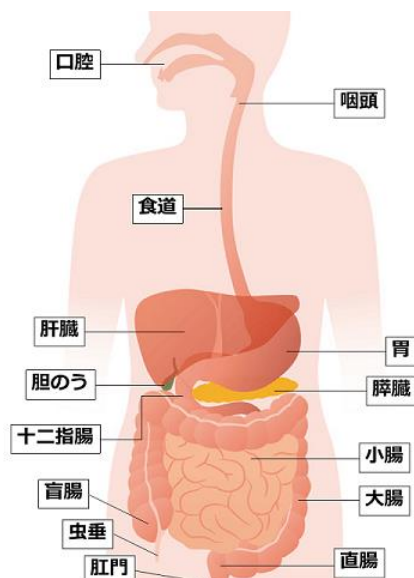
## PNS (パートナーシップナーシングシステム)



積貞棟 7階は全勤務帯PNS  
で働いています。  
2人1組で患者を受け持ち、  
役割分担・報連相を徹底し  
看護業務を行っています。  
A・Bの2チームに分かれて、  
日勤帯は4～5ペア、  
長日・夜勤帯は2ペアで  
ラウンドします。  
チーム間の情報共有も行っ  
ています。

# 消化器って何？

- 食べたものを分解して体内に取り込む働きをする器官のことです。
- 消化管は口から肛門まで一本でつながっています。



## 主な治療

### 〈化学療法〉

抗腫瘍薬を用いてがんを治療することです

#### ①術前補助化学療法

術前に行う化学療法によって、がんを小さくしてから、手術を行うことで、より良い治療成績を得ることを目的としています。

#### ②緩和的化学療法

切除不能もしくは再発のがんに対しては、手術適応がないため、抗腫瘍薬によって腫瘍の縮小を狙ったり、進行を抑えることを目的としています。



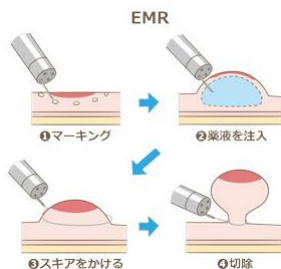
内視鏡で食道や胃、十二指腸、大腸のポリープが見つかった患者さんが対象となります。  
腺腫などの良性の腫瘍や癌に対する治療法で病変の形や大きさによって使い分けられています。

## ポリペクトミー

茎のある病変に金属の輪（スネア）をかけて  
焼き切ります。

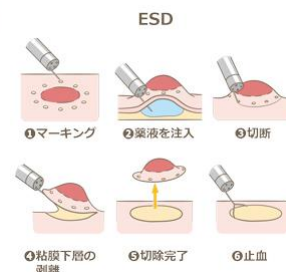
## EMR

粘膜の下に針を刺して薬液を注入した後に、スネアをかけて切り取ります。茎のない平坦なポリープに用いられます。



## ESD

粘膜の下に薬液を注入し電気メスを用いて病変部  
を剥離します。大きな病変に用いられます。



## ERCP

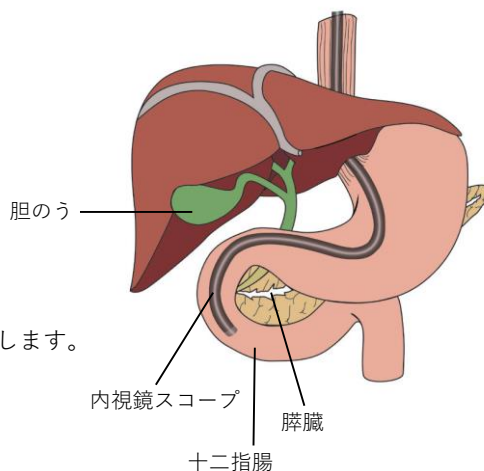
結石やがんなどで胆汁の流れが悪い（肝機能障害や黄疸がある）患者さんや、胆道（胆管、胆のう）や膵臓がんが疑われる場合に行われる治療です。  
適応疾患は胆石症、胆管がん、胆のうがん、膵がんなどです。

内視鏡を使って胆汁と膵液の流出路である十二指腸乳頭部から胆道、膵管に造影剤を注入し結石やがんの有無を確認します。  
また必要であれば十二指腸乳頭部を切開し、結石の除去や胆汁の流れの改善をすることができます。

## EUS-FNA

消化管の粘膜下腫瘍、膵病変の患者さんを対象に行います。  
腫瘍の良悪性の鑑別、組織・進展度診断を行って治療方針を決定します。

超音波内視鏡はレンズの先端に超音波装置が搭載されている内視鏡です。病変を描出し、先端から針を出して超音波下に病変を穿刺します。



## 肝生検

肝臓の腫瘍が疑われる患者さんに対して行われます。  
超音波下で肝臓を穿刺し、組織を採取します。  
採取した組織を検査して、良悪性の鑑別をします。

## RFA

肝機能や全身状態が悪かったり、高齢で手術が困難な患者さん・手術を希望しない患者さんが適応です。  
超音波ガイド下で電極針を経皮的に挿入し、電極周囲に熱を発生させて、がんを焼き切ります。

## TACE（肝動脈化学塞栓術）

肝細胞がんに対する治療法の一つです。  
カテーテルという細い管を鼠径部にある大動脈から挿入します。カテーテルが腫瘍を栄養する動脈まで到達すれば、そこから抗がん薬と塞栓物質が注入されます。  
治療は局所麻酔下で行われます。

## 若手職員紹介

●積貞 七子さん ●入職2年目、積貞棟7階（消化器内科）

●主な仕事内容 消化器内科では消化器癌の患者さんが多く、早期の癌に対しては内視鏡治療を行ったり確定診断を付けたのちに化学療法や放射線療法を行う患者さんのケアを行っています。又胆石胆のう炎の処置も多く自宅に帰るまでの日常生活が低下しないよう援助したり治療を継続しながら安心して退院することができるように地域と連携して退院調整を行っています。

### 積貞さんのある1日

- 06:30 ● 起床
- 08:00 ● 病棟業務開始
- 12:30 ● 昼休憩
- 13:30 ● カンファレンス
- 16:45 ● 退勤
- 17:00 ● お買い物をしつつ帰宅、炊事
- 18:00 ● 夕食、超音波内視鏡の事前学習
- 23:00 ● 就寝

### 仕事をするうえで大切にしていること

内科ですが内視鏡処置や化学療法など業務内容が幅広く1日10件以上の内視鏡も多いので、ひとつひとつの業務をしっかり確認しながら行うことを心がけています。  
業務で忙しくても患者さん一人一人に合わせた看護が行えるようにベア間で考えています。  
病棟全体でもお昼のカンファレンスで看護計画や看護ケアの方法をチームみんなで考えています。  
リフレッシュができるように、プライベートではしっかり休んで気分転換をしています。

### メッセージ

色々な疾患を抱えた患者さんと関わることができるのでとても勉強になります。  
看護技術の研修も充実しており、1年目でも安心して業務を行うことができるのではないかと思います。  
寮には4年間住むことができるので、他病棟の同期や年齢の近い先輩と気軽に挨拶できる環境で生活しています。

